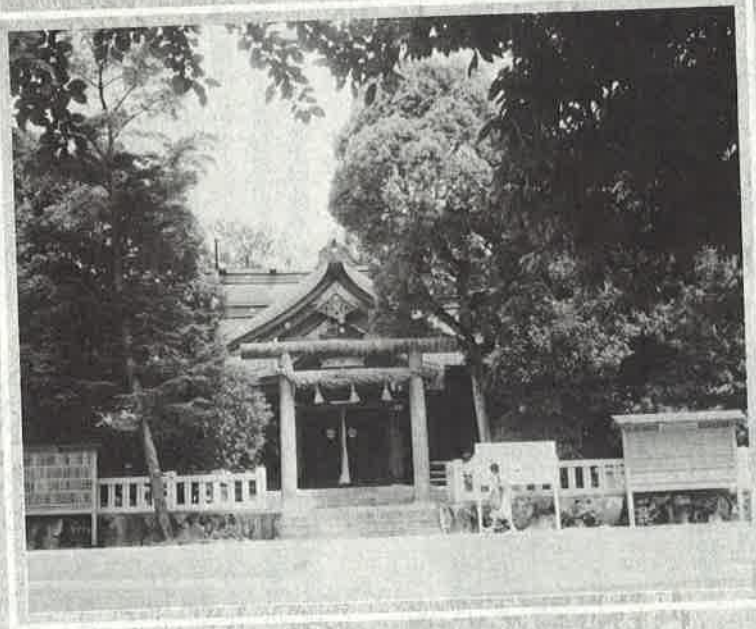


みのおのおいたち その6

箕面地区(二)



箕面地区を東西に分けて流れる箕面川の西側は、報恩寺松尾山の山麓斜面が丘陵状の台地になって広がっています。その中



そして台地の周辺には、今も数基の後期古墳が残っています。かつては数多くの「塚」があったとも伝えられています。

史あたりに箕面地方を代表する古社の阿比太神社があります。

こうしてみると、この丘陵台地の一帯は、上古の時代には特

別の場所、つまり「聖域」であったことがわかります。阿比太神社は、まさにそうした時代の象徴―記念碑―です。

この阿比太神社の名が初めて出てくるのが、国の正史である『統日本後紀』です。

仁明天皇の嘉祥三年(八五〇)に摂津国豊島郡にある阿比太神社が、従五位下という位階(神階)を授かったという事です。

阿比太神の叙位に関する理由はわかりませんが、たぶんこの神を祀っている氏族の功績によるのでしょう。

平安時代の延長五年(九二七)につくられた延喜式「神名帳」には、豊島郡内の式内社五座が載せられています。そして阿比太神社は垂水神社(吹田市)とともに大社に挙げられ、月次祭と新嘗祭には国から幣帛が献上されました。

ところで、現在の阿比太神社は新稲・桜・半町の産土神(生

まれた土地の守り神)となっていますが、神社の名まえから判断すると、阿比太連一族が、彼らの守護神として祖先を祀った神社だったのでしょう。この阿比太連は「新撰姓氏録」の注記などで、先祖を物部氏と同じくする同族系統であることがわかります。この系統に属する箕面地方の古代氏族には、為那郡比古神社を祀ってきた為那氏族が知られるなど、上代の北摂各地には物部系統の氏族が早くから住みつき、地域を代表する有力氏族として栄えていました。従って、阿比太神社を創建した阿比太連一族は、上代の箕面地区を代表する氏族であり、地域の支配者の立場にあった有力者だったに違いありません。その彼らの足跡は、今まではほとんどわかりませんでした。近年の遺跡調査で、断片ですが少しずつわかってきました。

次号では、遺跡と古墳を手掛かりに、箕面地区の上代を垣間みることにしましょう。